

日立支社(日立市、高萩市、北茨城市)

☎0294(22)4466 ファクス(22)4480

常陸太田支局(常陸太田市)

☎0294(72)0201 ファクス(72)0440

## 常陸太田 ワーキングホリデー



## ブドウ、ナシ農家で援農

ブドウの花切り作業を進める「ワーキングホリデー」の参加者たち＝常陸太田市増井町の椎名正和さん方

首都圏を中心にした短期滞在型の「援農ボランティア」15人が28日、2泊3日の日程で常陸太田市を訪れ、6軒の受け入れ農家に分かれてブドウの花切りやナシの摘果作業を手伝った。市内の県立西山研修所に宿泊し、30日午前まで農作業を手伝うほか、農家宅で食事を共にするなどして交流を深める。

同市が初めて取り組む「ワーキングホリデー」事業で、農業に関心を持つ人たちにボランティアで農作業を支援してもらい、都市と農村の交流を深めながら農繁期の労働力不足を補うのが目的。往復の交通費と宿泊費用は参加者が自己負担し、

滞在中の食事については農家側が負担することになっている。今回はブドウの農作業に11人、ナシは4人が申し込んだ。居住地の内訳は東京、千葉、埼玉各都県と県内。年齢は10代から60代まで幅広い。受け入れ側は茨城みずほ農協のぶ

## 交流と労働力不足解消へ15人参加

どう部会、なし部会に所属する6軒。本多孝文さん、椎名正和さん、椎名理さん、本多技研さん(以上ブドウ)、檜山邦男さん、萩谷輝夫さん(以上ナシ)が引き受けた。ブドウの花切りは房の大きさを制限し、養分の分散を防ぐために行われる作業。椎名正和さん(増井町)の畑では小柴里奈さん、志田愛香さん、波田野千春さん(いずれも大妻女子家政学部2年)が従事した。

総務省の地域力創造アドバイザー事業で同市を担当し、同大の非常勤講師として「食と社会」の授業を受け持つ金丸弘美さんの勧めで、参加したという3人。ビニールハウス越しに青空を眺めながら淡々と花切りを進める一方で、「全部手作業でやるって知らなかった」「バイトよりこっちの方が楽しい」などと会話も弾んだ。椎名正和さんは「手間と時間がかかる作業。大助かりです」と、助っ人に感謝していた。本年度2回目の作業については、今回参加した中から6人が継続して申し込みを済ませている。ブドウの袋かけは7月23～25日、ナシの収穫は9月10～12日を予定。また、ソバの農作業も夏から秋にかけて5回(いずれも1泊2日)に分けて行われる。